

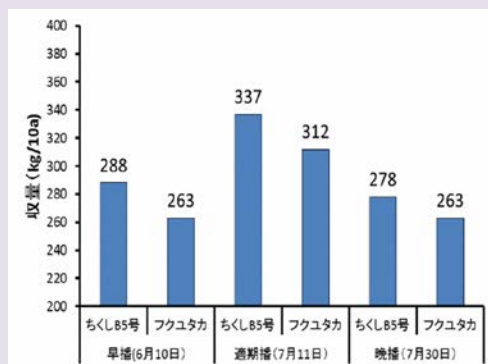
【全体概要】

福岡県の大豆は、担い手の経営規模が拡大する中、気象変動の影響も重なり、播種等の作業に遅れによって収量・品質が低下している。多収で、より早くから播種が可能な新品種「ちくしB5号」の導入に取り組み、安定的な取引を確立する。

新品種・新技術等の概要

【ちくしB5号の特徴】 ※既存品種「フクユタカ」との比較

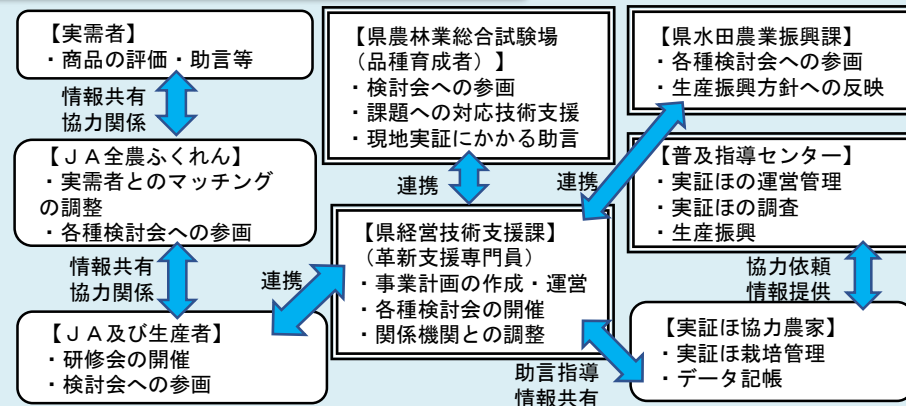
- 収量は約8%多い。耐倒伏性は強。
- 播種適期幅が広く、6月中下旬から早播きできる。
- 外観品質や加工適性は同程度に優れる。



主な取組内容

- 収量、品質向上実証ほの設置
県下10か所に設置。現地検討、成績検討会を開催
- 栽培技術マニュアルの作成
- 品質評価の実施
品質分析、実需者による評価を実施
- 生産者研修会の開催
技術指導や産地と実需者との意見交換を実施

実施体制図



課題と今後の対応

【実証結果の概要】

- 地域適応性を検討。耐倒伏性に優れ、早播きでは103%、標準播きでは116%多収(フクユタカ対比)。
- 気象変動の影響により粒の充実が不足したため、R2実証ほでは登熟向上対策も含めて実施。

【産地づくりへの活用・展開】

- 実需者による品質評価は、「フクユタカ」と同程度に優れる。引き続き、R2も実施。
- R2では栽培技術マニュアルを作成。生産者研修会等で栽培技術を周知し、普及拡大する予定。